

向陽中だより



本校生徒会キャラクター「ひま SUN」

第10号

令和4年2月28日

杉並区立向陽中学校

<教育目標> ◎ よく考える人 ○ 思いやりのある人 ○ たくましい人

<学校評価・杉並区教育調査の結果のお知らせ>

校長 中谷 愛

本校の教育目標及び今年度学校経営計画の達成状況を把握するため、学校評価・杉並区教育調査を生徒・保護者を対象として1月に実施しました。御協力いただきありがとうございました。回答結果を基に肯定率をまとめ、考察しましたので報告します。いただいた回答結果を次年度の教育計画に生かし、今後も学校・保護者・地域がより連携・協力しながら進んでまいります。

<学校評価> ※「とてもそう思う」「ややそう思う」の割合を肯定率で表しています。（ ）内は昨年度のもの。

○学習環境（肯定率）	生徒	保護者
1 安全で衛生的な学習環境の中で、安心して学ぶことができている。	91.4% (90.4%)	84.9% (82.7%)
2 学校は、換気をし、密集、近距離での会話や大声を避けた学習方法を工夫している。	86.8% (76.6%)	75.5% (63.6%)
3 困ったり悩んだりしたときに、スクールカウンセラーに相談しやすい雰囲気を感じている。（スクールカウンセラーと面接することを通じて、学校に相談しやすい雰囲気がある。）	44.0% (39.7%)	36.8% (21.7%)

【考察】

感染症対策の徹底2年目を迎えて、衛生面での安全な環境づくりや安心できる学校での生活が定着している。スクールカウンセラーへの相談の新規申込みは昨年度と比較し増えている状況がある。今後も相談日の予定をホームページで発信するとともに、その日のタイムスケジュールを職員室内で共有し、希望する生徒や保護者へ即時に案内できるようにするなどの工夫を継続して行っていく。

○「たくましい人」（肯定率）	生徒	保護者
4 生活のリズムを守り、健康に気を付けながら過ごしている。	65.3% (67.8%)	75.5% (72.0%)
5 手洗いや咳エチケット（マスク着用など）を徹底し、習慣化している。	94.4% (90.1%)	95.8% (91.6%)
6 十分な睡眠、適度な運動、バランスの取れた食事をこころがけている。	70.1% (70.6%)	82.5% (74.8%)
7 「健康観察カード」で自ら検温し、毎日の健康状態を自分で確認することを習慣化している。	86.6% (78.7%)	84.4% (84.1%)

【考察】

今年度の取組として、健康な過ごし方について年間を通じて保健だよりで案内するとともに、第5波の期間（9月1日始業式）に保健主幹による全校生徒を対象にした講話を実施した。また今年度2学期

より、「健康観察カード」を、これまでの紙提出に加えオンラインでの提出も開始した。適度な運動、十分な睡眠及びバランスの取れた食事の啓発については、第6波の期間（2月19日）に杉並区薬剤師会の田嶋美智子医学博士による全校生徒を対象にした講話を実施した。昨年度課題であった健康管理を習慣化できていない2～3割の生徒について解消が図られている。

○「よく考える人」(肯定率)	生徒	保護者
8 授業中の教員の問い合わせに対して考え、学んだ知識を活用しようとしている。 (授業中の教員の問い合わせに対して考え、学んだ知識を活用して解決できる。)	84.7% (75.8%)	68.4% (63.6%)
9 他の生徒と学び合うことで、授業の目標を達成するための解決策を考えようとしている。(他の生徒と学び合うことで、その日の授業の目標を達成するために深く考え、学んだ知識を活用できている。)	80.2% (69.2%)	76.9% (59.8%)
10 【新】授業で話し合って得られた知識を生かして、さらに考えを深めている。	75.4%	67.0%
11 宿題や定期考査前の学習に計画的に取り組むことができている。	60.8% (64.8%)	67.5% (58.4%)
12 授業を通じて知識を身に付けるだけでなく、学習への意欲を高めることができている。	69.8% (64.1%)	63.2% (53.3%)
13 地域に生きていることを実感し、社会に貢献しようとする意欲をもっている。	64.6% (56.8%)	51.4% (47.7%)
14 動画配信やロイロノートを活用した授業を通じて、内容について調べたり、考えたり、判断したりすることができた。(動画配信を使って、学習内容について調べたり、考えたり、判断したりすることができた。)	84.3% (52.7%)	59.9% (27.6%)

【考察】

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた今年度の取組として、年間11回の校内研修に加え、思考力・判断力・表現力等を深める問い合わせやロイロノートを活用した指導展開を研究するため、玉川大学久保田善彦教授による教員の提案授業に対する指導・助言を2回実施した。昨年度に引き続き、本調査と併行して行った生徒の授業充実度は全教科（9教科）と道徳・総合的な学習の時間の11分野において高水準で、特に総合的な学習の時間次いで社会科の学習への関心・意欲が高い。このことと関連して、地域社会に貢献しようとする意欲も向上している（生徒の肯定率割合が昨年度比約1割増）。

次年度は、「深い学び」を実現する質の高い授業を目指す。また、生徒が各学習に対する意欲を高めることができるよう、「どのような力を身に付けるのか。そのために何をどのように学ぶのか。」といった視点を都度確認して学びに向かうことができるようとする。このことで宿題や定期考査の取組の改善にもつなげていく。

昨年度は新型コロナウィルス感染症の影響により実施できなかった職場体験を、今年度は対策を講じながら実施することができ、あらためて体験した生徒が得た学びの成果を把握することができた。次年度も職場体験を中学校3年間のキャリア教育の一環として位置付け、世の中のことを自分事としてとらえ、持続可能な社会の創り手の育成に向けた教育活動の充実を図る。

ICTについては、生徒一人一台タブレット配備が完了し、活用する環境は整った。次年度は、対面と

オンラインのそれぞれのよさを生かしたハイブリッド型の教育活動を促進する。また、ICT をスタディログ（学習履歴）の蓄積・分析・活用を目的として使えるようにする。デジタル教科書については、英語と国語・書写から導入し、当該教科における活用事例を研究する。

今年度、各学年で一部の生徒による自主的な取組として、定期考査前の放課後自主学習が定着したことが成果である。このことと併行して、生徒が学習に計画的に取り組めることを目指した個別の支援の機会として、引き続き、水曜質問教室や木曜 CAFÉ 勉、定期考査前の土・日曜日 KOYO スタディを定期的に行えるよう、地域との連携を図る。

○「思いやりのある人」（肯定率）	生徒	保護者
15 思いやり・感謝する心をもって「ありがとう」と言えている。	91.0% (90.4%)	89.2% (91.1%)
16 生徒会がつくった「向陽中学校いじめ0%5か条」を理解し、実践している。	81.3% (82.4%)	84.4% (79.4%)
17 【新】道徳の授業において、自他の考えを大切にする心が育ってきている。	82.8%	80.2%

【考察】

今年度の取組として、東京都中学校道徳教育研究会の麻生隆久副会長による教員の提案授業に対する指導・助言を2回実施した。また、人権教育・道徳教育推進担当の企画による「性同一性障害者」「性的志向」の理解に向けた全校道徳を実施した。このような取組の一定の成果があったと考える。

「向陽中学校いじめ0%5か条」の実践に向けた今年度の生徒の主体的な取組として、生徒会の企画による「気持ちの木プロジェクト」が開催された。相手に伝わることで心の交流を図ることができる温かいエピソード一つ一つを葉に書き留める形で木をつくり、本校生徒の思いやりの実践を可視化することができた。生徒の高い自治力により行われた本実践の価値を新入生に共有できるようにしていく。

<杉並区教育調査> ※「とてもそう思う」「ややそう思う」の割合を肯定率で表しています。

○生徒集計結果	肯定率
1 先生は、クラスのみんなが分かり合い、協力し合えるようにしてくれている。	84.3%
2 授業では、学習を進める方法やペースを、自分で決めながら学んでいる。	62.3%
3 授業では、自分の得意なところを伸ばしたり、苦手なところを少なくしたりできるように、個別に教えてくれている。	45.5%
4 授業では、自分の興味に基づいて課題を立てて学んでいる。	51.9%
5 授業では、自分が必要な時に、必要な仲間と協力しながら学んでいる。	80.2%
6 学校の授業によって、分かることやできることが増えている。	84.0%
7 先生は、授業で自分ができたことを誉めてくれたり、間違えたところを教えてくれたりしている。	69.8%
8 先生は、授業において電子黒板やデジタル教科書を活用している。	92.5%
9 先生は、今の授業で学習していることが、前の授業や今後の授業とどのようにつながっているか、教えてくれている。	72.0%
10 道徳の時間では、友達や家族、地域の人たちと共によりよく生きることの大切さについて、みんなで話し合っている。	74.3%

11 先生は、健康な生活を送るために必要なことを教えてくれている。	65.3%
12 地域の行事に参加している。	30.6%
13 先生は、地域の人たちと協力しながら、授業や学校行事をよりよくしてくれている。	54.5%

【考察】

5 の肯定率が高い一方で、3 や 4 の肯定率は低いことから、これまでに充実してきた「協働的な学び」に加え今後は「個別最適な学び」も取り入れていく必要がある。次年度は、二つの学びを一体的に実現できる授業を実施する。「個別最適な学び」で得られた成果については「協働的な学び」に生かし、「協働的な学び」で得られた成果については「個別最適な学び」に生かせるような学習プロセスにしていく。その際、生徒が学習の進め方を自身で調整できるようなアプローチも重視できるようにする。

今年度、6 回の地域の方による授業を実施した（現時点）。全ての回において生徒の高評価を得ている。次年度は、教育目標を高く実現できるよう、年間を通じて土曜授業の内容を生かした教育活動が展開できるようコーディネーターを中心として調整を図る。

○保護者集計結果	肯定率
1 子どもの学校生活は、全体として満足できるものである。	77.4%
2 連携する小・中学校による小中一貫教育（小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている。	46.7%
3 学校は、自校の教育活動に関する評価結果とそれに基づく改善策等の情報を提供している。	65.1%
4 学校では、子どもが安心・安全な学校生活を送ることができる学級づくりを行っている。	81.0%
5 子どもは、学校で学ぶことにより、必要な時に、必要なことを、自ら学んで身に付けることができる力が育っている。	65.1%
6 学校は、子どもの学習状況を適正に評価している。	62.7%
7 学校は、ICT 機器（電子黒板やデジタル教科書等）を活用した授業を行っている。	69.8%
8 子どもは、学校での生活を通して、他者と共によりよく生きるための力が育まれている。	79.7%
9 子どもは、学校での生活を通して、体力や食、生活習慣をはじめ健康な生活を送る力が育まれている。	80.2%
10 子どもが人間関係や自分自身の心の問題で悩んだとき、学校は、その解決をきめ細やかに支援してくれている。	46.2%
11 学校は、子どもたちの発達に関する課題など、障害理解を深める情報を提供している。	42.0%
12 子どもは、特別支援学校や特別支援学級の子どもと交流したり、一緒に活動したりする機会がある。	22.2%
13 学校は、家庭や地域と連携・協力して教育活動を行っている。	64.2%

【考察】

小中一貫教育については、これまで小学校 6 年生のみを対象にして実施していた交流事業を次年度は 5 年生まで対象を拡大して実施する。特別支援学校との交流については、中央ろう学校中学部との生徒会同士の交流を 2 月 9 日にオンラインで実施し、本校生徒にとって手話を学ぶ貴重な機会となった。中央ろう学校から部活動による交流の御提案もいただき、次年度は交流内容を拡大していく。

中央ろう学校との交流

生徒会担当 教諭 呼野 美咲

令和4年2月10日（木）中央ろう学校との交流がオンラインにて行われました。昨年度は感染症対策のために行うことができず、2年ぶりの開催が決定し、向陽中生は、生徒会に加え、生徒会の呼びかけにより9名が参加しました。

内容の企画を考えた生徒会役員が話し合いをしていく中で目的としたことは、「多様性を理解すること」そして、「多様性を理解することで思いやりの心を向陽中生に育ませられないか」ということでした。初めはどのようにコミュニケーションをとるのか不安もありましたが、中央ろう学校の生徒さんは、明るく、話にうなづいてくださったり、すぐに質問に答えてくださったり、向陽中生は気持ちが伝わっていることに安心しているようでした。



1 自己紹介・手話を教わる

紙に大きな字を書いてカメラに映しながら紹介しました。手話は、2名の生徒に教えていただきました。「自分の名前について、画面越しに話し合って教えていただけて、嬉しかった」との感想がありました。

2 学校紹介

向陽中生徒会は、パワーポイントを用いて視覚で内容が伝わるようにしました。

中央ろう学校生徒会は、学校の施設を教えてくださいり、とても興味深かったです。例えば、授業の始まりのチャイムが鳴るときにライトで知らせていたり、教室の中が見えるようにドアが透明になっていたりと、様々な工夫が施されていました。

3 全体を通して

生徒の皆さん様子を見て交流をさせていただくことで、身体的な違いはあるけれど、自分たちと同じ中学生であることを再確認していました。相違だけでなく同じところも探したり、その他いろいろなお話をしたりすることで、「また交流をさせていただきたい」という意見が多く出たので、次の機会を楽しみにしております。

今回学んだこと・感じたことを生かしながら、「生徒全員が思いやりをもって笑顔で過ごせる学校をつくろう」という活動目標に沿って、生徒会活動が充実していくよう今後も支援をしていきます。

気持ちの木プロジェクト



セーフティ一教室「薬物乱用防止教室」

2月19日（土）の土曜授業にて、杉並区薬剤師会 薬物専門講師の田嶋 美智子 氏をお招きして、薬物乱用防止教室を行いました。校内のオンラインで講演を行い、田嶋氏からは「くすりの正しい使い方」と題して、自然治癒力・薬の種類・薬の効果・薬の副作用・薬物中毒・ドーピングについてお話ししていただきました。薬の種類や用法・用量についての説明を聞き、処方された薬は自分だけが使って人にあげていけないこと、また、飲むときには水で飲まなくてはいけないことなど、実験データなども提示しながら詳しく説明していただきました。くすりの正しい使い方についての理解を深めると共に、まずは、健康するために日常生活で適度な運動をすることや栄養バランスのとれた食事をとること、十分な睡眠をとることの大切さを学びました。会の終わりに、2年生の生徒代表が謝辞として、「薬は飲み方を誤るととても危険なものであることが分かりました。これから的生活に活かしていきます。」と述べました。講師の田嶋様、本当にありがとうございました。



学校保健委員会の報告

2月24日（木）に本校の学校医の先生方並びにPTA会長の参加により、学校保健委員会を開催いたしました。学校からは、塩畠主幹養護教諭が今年度の健康診断の結果や保健室の来室状況、生徒会保健委員会の取組を報告しました。また、高山栄養士からは、コロナ禍での学校給食の対応について説明をしました。その後学校医の皆様からご助言をいただきました。（特に注意すべきことについて下記に記載）

○眼科医の鈴木先生より：手洗いができるので、結膜炎が減少している。逆に近視は増加傾向にあるので、タブレットパソコンやスマートフォンは30cm以上離して見ることやまばたきを意識的にすることなどに注意する。

○内科医の神馬先生より：オミクロン株（BA-1）の現状として、特にデルタ株の3倍の感染力であること。さらに置き換わり始めているBA-2は、BA-1の1.4倍の感染力がある。飛沫感染の対策としては、不織布のマスクを正しくつけること。鼻マスクはもちろんのことウレタンマスクも予防効果がなくなる。また、窓を2方向開けて換気をすること。黙食の徹底。接触感染の対策としては、石けんによる手洗いがノロウィルスとともに有効である。

今後の予定〔3月〕

- 3月1日(火) 都立一次・分割前期入試発表・手続き
3年 4時間授業 給食なし
- 2日(水) 全校朝礼・安全指導（オンライン）
2年 上級学校説明会【正装】（オンライン）
第2回保護者会（オンライン）
- 3日(木) 3年 修学旅行～5日（土）
- 7日(月) 3年 振替休業日
- 8日(火) 3Aブックトーク
- 9日(水) 3Bブックトーク、校内研修会
- 10日(木) 3Cブックトーク
オンラインビブリオバトル（放課後）
- 11日(金) 避難訓練、⑥一斉委員会
- 12日(土) 土曜授業

1・2年「伝統文化」、3年「福祉体験」

- 14日(月) 生徒会朝礼
3年 特別時間割始
- 16日(水) 3年 ③④卒業式予行・給食終
職員会議
- 17日(木) 卒業式準備
- 18日(金) 第73回 卒業式
(希望する1・2年は歓送に参加)
- 22日(火) 小笠原自然体験交流始～27日(日)
- 24日(木) 第Ⅲ期時間割終、第3学期給食終
校内美化活動
- 25日(金) 修了式【正装】
- 26日(土) 春季休業日 始